

2019. 12. 15 第3主日待降節Ⅲあかし礼拝

ルカ 2:25-35 「シメオンの賛歌—すべての民に救いが」

聖書

25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。

26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。

27 シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。

28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

29 「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。

30 私の目があなたの御救いを見たからです。

31 あなたが万民の前に備えられた救いを。

32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」

33 父と母は、幼子について語られる様々なことに驚いた。

34 シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れたり立ち上がったりにするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。

35 あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。

はじめに

待降節第三主日の朝を迎えました。マリアの賛歌、ザカリヤの賛歌と見て来ましたので、今朝はシメオンの賛歌に心を向けましょう。ルカ 2 章には幼子イエスを抱き、救い主誕生を喜んだ二人の老聖徒が登場します。一人は今日取り上げる主のしもべシメオン。もう一人は女預言者として主に仕えてい

たアンナ。二人の老聖徒がキリスト誕生の場面に登場することの意味は、旧約の古き時代は終わり、これからキリストによる新しい時代、新約の時代に入ることを象徴的に表していると思われます。真の神の救いを待ち望んだ二人の老聖徒の死は、まさしく時代の転換を意味するものでした。キリストの誕生は、紀元前と紀元後に歴史を分けるほどの大きな意義を持ったものでしたが、そこに立ち会ったシメオンのことばには、開かれる新時代の希望と困難が予兆されていて、聞く者の心に強い印象を残すものでした。

1. 新時代への備え

まず、開かれる新時代の希望に心を向けましょう。イエスさまの両親であるヨセフとマリアは、旧約の律法の慣習により初子を神にささげるためにエルサレムにやって来ました。ここにタイミングを計ったようにシメオンが宮（神殿）に入って来ました。余談ですが、私たちの人生にも「絶妙のタイミング」で人と出会ったり、物事が動いたりすることがあります。これは聖霊なる神さまの導きだと思うのです。イスラエルが慰められることを待ち望んでいたシメオンの上には「聖霊が彼の上におられた」（25 節）とあり、聖霊はまさしく「この時」を用意しておられたのです。

シメオンの賛歌の冒頭に「今こそ…去らせてくださいます」（29 節）ということばがあり、このラテン語からシメオンの賛歌のことを「ヌンク・ディミティス」と呼びます。シメオンは「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。」と語り、人生の目的を全うした者の最後のことばとして重く受け止めました。人生の安らかな終焉は「完結」ということばで表されるのです。イエス・キリストの十字架上の最後のことばも「完了した」（ヨハネ 19：30）でした。救いの道を開く使命を完了し、息を引き取られました。シメオンが幼子イエスに神の救いを見、安らかに人生を締め括ったように、私たちの人生もそうでありたいと思います。キリストの救いに与り、平安のうちに人生を全うする、このような生涯をぜひ求めていただきたいと願います。

2. すべての人の救い主

シメオンの賛歌には新時代にふさわしい表現があります。シメオンは「私の目があなたの御救いを見たからです。あなたが万民の前に備えられた救いを。異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」(31, 32 節) と賛美しましたが、この中の「万民の前に備えられた救い」「異邦人を照らす啓示の光」が、新時代にふさわしいことばなのです。

神さまの祝福と救いの恵みは選民であるイスラエルのみにも与えられると信じていた当時のユダヤ人にとって、神の救いが万民である異邦人にまで注がれるとは考えられないことでした。しかしシメオンが聖霊によって語ったことばには、確かに神の救いがすべての民に注がれると約束されており、このことの意義は非常に大きいのです。キリストは一部の民族の救い主ではなく、すべての人々の救い主であるがゆえに、日本人である私たちにも福音が伝わってきたのです。ヨハネ 1:9 に「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた」とありますように、すべての人の心を照らし、すべての人に神の救いを届け、すべての人に祝福を約束するために、キリストはこの世に誕生してくださいました。キリスト教会がクリスマスを大切にする理由は、キリストはすべての人の救い主としてこの世に来られたお方であり、それを伝えることが教会の使命だからです。キリストの誕生を祝うとともに、誕生の意味をお届けしないのならば、教会は使命を果たしているとは言えないのです。

キリストを救い主として信じる人たちが起こされることは何よりの喜びです。信じることによって人生が変えられて行った人たちを何人も見てきました。こうして礼拝に集う私たち一人一人も人生を変えて頂いた者です。自分の人生に何かの変化を求めておられる方はぜひ礼拝においでください。一人一人の救いの証がどなたかの救いのために用いられるなら、何と幸いなことでしょう。

3. キリストは反対のしるしとなる

そして、もう一つ。シメオンの賛歌には救いの希望と共にこの後に控えて

いる困難についても予言されています。シメオンは母マリアに向かって「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人々が倒れたり立ち上がったたりするために定められました。また、人々の反対にあうしるしとして定められています。あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」(34, 35 節)と語りました。このことばをあえて母マリアに語られたことの意味はとても重いです。

当時のイスラエルはローマ帝国の支配下にあり、強大な権力の下に苦しめられていましたから、人々はローマからの救世主を待ち望んでいました。そこに救い主としてキリストが誕生されたとき、多く的人是政治的な救世主を期待したのです。しかし、キリストの救いはローマ政府からの救出ではありませんでした。最初の大きな期待が失望に変わり、やがて反対者になって行く人々の心の様子が、シメオンによって予言されたのです。とりわけ旧約を重んじるユダヤ人からの反発は大きく、キリストは本流であるユダヤ教から派生した「新興宗教の教祖」として見られ、当時のユダヤ教指導者に異を唱え、逸脱した旧約の精神を正すために立ち上がった異端者というレッテルを貼られたのです。旧約の律法にがんじがらめにされ、宗教の名の下に自由を奪われた民衆にとって、キリストのメッセージは斬新であり開放的であり魅力に満ちていました。民衆がどんどんキリストになびいて行く様を、ユダヤ教指導者たちは黙って見ているわけにはいきません。それがキリストへの反発・反対となり、延いてはキリストを十字架に追いやる理由となっていくます。

「人々の反対にあうしるし」とは十字架を指しており、それを目の当たりにしなければならぬ母マリアの心痛がどれほどなのかを「あなた自身の心さえも、剣が刺し貫く」と予言したのです。目の前でわが子がはりつけにされる場面を見なければならぬ母の悲痛を思うとき、いのちを宿した母ならではの痛みを想像し、胸が張り裂ける思いです。

キリストの誕生は、神さまの私たちへの愛の証であり、救いの到来として歓迎すべきものです。しかし、一方で真理が世に証されたことによって、真理の前に人々は立たざるを得なくなりました。結果、キリストを受け入れる者と拒絶する者とに二分されたのです。その意味でキリストの誕生は歴史を

二分しただけでなく、人々をも二分したのです。私はキリストを救い主として受け入れる側に立ちましたが、拒絶する人たちがいることも理解できます。なぜなら、キリストがこの世に来られ、神の御心が明らかにされたとき、今までの自己中心的な生き方が、キリストの前に問われることになるからです。その問いにどう答えるのかによって、受け入れる者と拒絶する者へと二分されるのです。シメオンの賛歌には、人がキリストの前にどういう態度を取るのかという選択が込められているのです。

キリストこそ人生の試金石です。「見よ、わたしはシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼する者は、決して失望させられることがない。」(Iペテロ2:6)。このみことばのように、すべての人々が「キリストに信頼する者は失望させられることがない」という道を選択できるようにお祈りします。

結び

今日の私たちも当時の人々と同じように、キリストの誕生の前に立たせられています。万民の救い主としてこの方を受け入れるのか、それとも反対のしるしとして拒絶するのか、その選択は各自に委ねられています。巷でもクリスマスがお祝いされます。そこに人生の選択を迫られるような重みがあるとは誰も思いません。多くの人々がクリスマスを喜び迎えますが、願わくはそのお祝いを通してキリスト誕生の意味に触れることができますように。今年のクリスマスを通して、キリストを救い主として受け入れる人が一人でも起こされるなら、それこそが本当のクリスマスです。